

第15期 株主通信

上半期のご報告

2025年4月1日～2025年9月30日



証券コード：5970

株式会社ジーテクト

Shape the Future

私たちの形づくるものは未来の姿。

これまでにない製品を世界に提案し続けることで、
人とクルマと地球の未来の姿を形づくりします。

未来への取り組みは、中面にて

「クルマのシステムサプライヤー(ティア0.5)」への進化

ジーテクトは、軽くて強い車体部品を生産する「車体部品サプライヤー」から、車体一台の開発を請け負うことができる「車体のシステムサプライヤー」に進化しようとしてきました。

そして今、さらに一步前進し、車体にとどまらないクルマ全体をターゲットとする「クルマのシステムサプライヤー(ティア0.5)」へと進化します。これまで培ってきた車一台解析技術や大型一体化技術をさらに発展させて、研究対象を車体以外の領域に拡大することで開発提案につなげ、自動車業界の大変革期を勝ち残ります。

2024年度 実績

売上高	3,392億円
営業利益	164億円
DOE	2.39%

システム
サプライヤー
移行期間

- 車体一台開発能力構築
- ネットワークの拡大・深化

2030年度 目標

売上高	4,000億円
営業利益	280億円
DOE	3.0%

クルマの
システム
サプライヤー
ティア0.5

- クルマのシステム開発受注
- 受注機種/OEM拡大

社長が答えるジーテクトの未来



Q 成果について教えてください。

A 複数の部品を統合する「大型モジュール戦略」が大きく前進しました。2つの仕様のリアモジュール製品を自動車技術の展示会「人とくるまのテクノロジー展」にて公開し、自動車OEMから大きな反響を頂きました。
また、生産体制の変革においては、今後のものづくりを象徴するモデル工場として位置付けられる日中の新工場(岐阜県の中部工場、中国の南沙工場)が稼働を開始しました。両工場は長年の課題であった構内物流の無人化を達成し、目標の一つである人に頼らない工場の実現に向けた大きな一歩となりました。

Q 課題はありますか。

A 収益性の向上が必要であると考えています。利益額は順調なものの、営業利益率は目標とする7.0%以上から乖離があり、収益体質向上に向けた抜本的な変革が急務であると認識しています。
これらの成果と課題を受け、更なる成長に向け3つの事業戦略を推し進めることとしました。

Q 3つの事業戦略について詳しく教えてください。

A 1つ目は「クルマのシステムサプライヤー(ティア0.5)」への進化です。車体一台解析技術や大型一体化技術といった開発力により、クルマ全体に対する提案を進め、自動車メーカーの開発パートナーとしてのポジションを確かなものにします。
2つ目は「新規事業の創出」です。自動車関連の既存事業領域だけでは将来的に成長の鈍化が懸念されます。そこで、自動車産業以外の新たな領域を対象に、新規事業の創出を目指します。
3つ目は「既存工場のスマートファクトリー化」です。ジーテクトが目指すスマートファクトリーは、あらゆる生産活動をAIがコントロールする、限りなく人に頼らない信頼性の高い工場です。工場から吸い上げたビッグデータをAIが分析・活用し、ムダの排除やトラブルの未然防止といった高効率化を追求します。最終的には、突発的な状況にAIが24時間体制で即座に対応する「AI制御」を目指します。

Q 「クルマのシステムサプライヤー(ティア0.5)」はこれまでの戦略とどこが違うのですか。

A これまで、車体一台の開発を請け負う「車体のシステムサプライヤー」を掲げてまいりました。これは、部品を生産するだけの従来の「車体部品サプライヤー(ティア1)」から一歩踏み出すものでした。
そして今、この戦略の対象範囲をさらに拡大します。今後は車体のみならず「クルマ全体」をターゲットとし、当社の技術が活かせる製品開発に取り組んでまいります。例えば、自動車は今後AD(自動運転)やADAS(先進運転支援システム)といった知能化が進み、関連製品群が付加されますが、これらの中からジーテクトの技術が活かせる領域で提案を行うことで、既存事業の更なる拡大を目指します。

Q 新規事業の対象や進め方は決まっていますか。

A 例えば、環境関連のような、社会課題の解決に向け当社が役割を果たせる領域が考えられますが、具体的な内容については、現在、若手社員を選抜したプロジェクトを立ち上げて検討中です。このプロジェクトでは、2040年ビジョンを明確にするほか、若手ならではの柔軟な発想力で、これまでの当社にはない事業の創出を目指します。また、プロジェクトを通して、次世代を担うリーダーの育成を図ります。

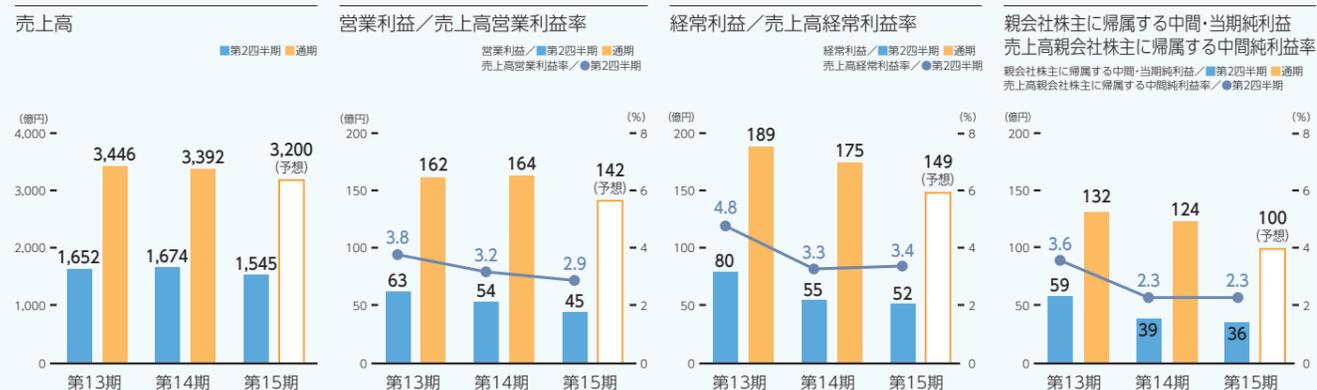
Q スマートファクトリー化の展望を教えてください。

A 日中の新工場は、スマートファクトリー化のベースとなるモデル工場と位置付け、構内物流の無人化やデジタル化を徹底し、製造原価の圧縮と信頼性の高い生産体制を実現しています。今後はこれらのインフラ整備を既存工場へ水平展開し、AI導入の準備を進めます。今期計画している北米工場への大規模投資もその一環であり、グループ全体で高効率な生産体質への変革を急ぎ、収益性向上を目指します。
2030年頃のAI制御の実現を目標に、全社を挙げてスマートファクトリー化を推進してまいります。

更なる詳細をジーテクトレポート(統合報告書)にて紹介しています。



連結業績ハイライト (2025年4月1日~2025年9月30日)



※11月13日、通期連結業績予想を修正しました。

TOPIC

展示会にて、大型一体化「リアモジュール」をお披露目しました。

最新技術が国内外から集まる日本最大級の自動車技術展示会「人とくるまのテクノロジー展」に初出展し、新開発のリアモジュールを含む、最新技術をアピールしました。来訪した自動車OEM関係者からは、すぐにでも量産できる現実的な仕様であることが高く評価されました。今後も開発力の成果を広く知っていただき、自動車OEMの開発パートナー「クルマのシステムサプライヤー(ティア0.5)」を目指します。



ジーテクト東京ラボ、羽村事業所見学会のお知らせ

最新の研究開発の取り組みや、モーターコア等のEV関連事業の実証ライン、強みの一つであるホットスタンプラインの見学を通し、当社の開発力・技術力をご理解いただけます。

開催概要

見学場所：ジーテクト東京ラボ(GTL)及び羽村事業所(東京都羽村市)
集合・解散：JR福生駅 改札口(バスにて東京ラボまで送迎いたします。)
※お車等での直接のご来場はご遠慮ください。
開催日程：2026年3月5日(木)PM(予定)
内容：概要説明の後、徒歩及びバスにて構内を移動し、施設内をご見学いただきます。
対象者：2025年9月末時点で、当社株式300株以上をご所有の株主様
募集人数：25~30名
参加費：無料(ただし、集合・解散場所までの交通費や宿泊費等は各自ご負担ください。)



応募要領

応募方法：同封の「株主様アンケート」に記載の「工場見学会へ出席をご希望される株主様」の欄に必要な事項をご記入の上、ご返送ください。
応募締切：2026年1月5日消印有効
当選発表：応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。当見学会にお越しいただくことが確定した株主様へは、2月中旬ごろに別途詳細をご案内申し上げます。
※ご応募により当社が取得する個人情報、本工場見学会実施のほか議決権行使に関するご案内や、株主様向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。

お問い合わせ先

株式会社ジーテクト 工場見学会係
電話番号 048-646-3404
9:00~17:00(土、日、当社休日を除く)

中部工場竣工式のご報告

10月3日(金)、中部工場(岐阜県)にて、工場の完成を祝う竣工式を執り行いました。自治体・議会関係者の方々、お取引先の方々をご招待しました。中部工場の発展を願う神事後、工場見学が行われ、構内物流を含めて徹底的に無人化された生産現場をご覧いただきました。



竣工式



起動式



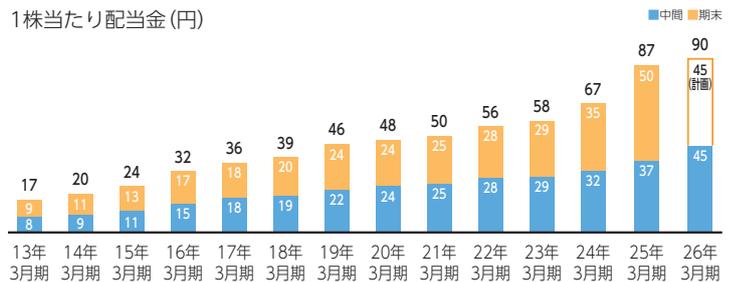
工場見学

株主還元

2026年3月期は、中間配当金・期末配当金ともに1株当たり45円とし、年間では、前期比3円増配の1株当たり90円とする計画です。

今後も長期安定的な配当を行い、配当性向30%以上・2031年3月期にDOE(株主資本配当率)3.0%達成を目指します。

1株当たり配当金(円)



※2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を実施しているため、2013年度以前の1株当たり配当金は株式分割考慮後の数値を記載しています。

最新の情報はジーテクトHPをご覧ください。



会社概要(2025年9月30日現在)

社名	株式会社ジーテクト
創業	1947年4月1日
設立	1953年11月4日
資本金	4,656,227,715円
代表取締役社長	高尾 直宏
事業内容	車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売

拠点	国内11拠点、アメリカ5拠点、カナダ1拠点、メキシコ2拠点、ブラジル1拠点、イギリス4拠点、ドイツ1拠点、スロバキア1拠点、中国5拠点、インド1拠点、タイ3拠点、インドネシア1拠点
----	--

株式会社ジーテクト

本社
〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。